

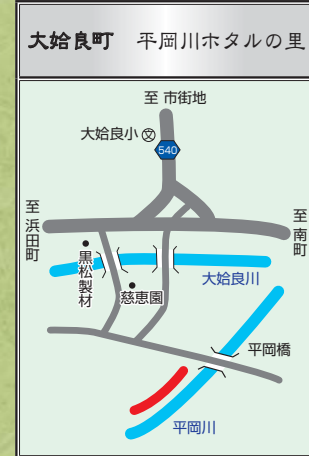


鹿屋市内のホタルスポットを紹介し、気象状況や天候により、観賞できない場合があります。



ひらぼうほたるの里 マスコットキャラクター「ひらちゃん」「ぼうちゃん」

鹿屋で最も多く見かけるゲンジボタルです。



ホタルの舞う季節が到来

各地の美しい自然を感じながら、ホタルの幻想的な舞いを鑑賞してみてください。

● interview
かのや「ホタルと水と緑を守る会」
会長 小牧正男氏

ホタルは、初夏の訪れを告げる自然の使者として、心豊かな生活環境を創り出してくれる生き物として、昔から多くの人々に親しまれてきました。また、夏の風物詩であるホタルからは、田園風景や川のせせらぎなどの身近にある豊かな自然が連想され、人々はその風景に、郷愁や心の安らぎを感じ取ることが出来ます。

私は、このホタルを復活させ、個性ある潤いに満ちたまちを造りたい、多くの皆さんに感動して貰いたい、との思いを馳せながら「美しい水辺、ホタルの里づくり」に取り組んでいます。

今年も5月の連休頃から、ホタルが飛び出し、いよいよ「ホタル祭り」が始まります。今回、ご紹介している場所では沢山のホタルの乱舞が見られるようになりますので、遠い昔の田園風景を思い出しながら、ホタルが舞う姿を楽しんでください。

我々は、この祖先から引き継いだ水環境を後世に引き継ぐため、これからは各地域の「ホタルの住める里庭」を守り育てていきたいと考えています。

ホタルが生息できるのは、きれいな水と豊かな自然のある場所です。

幼虫時代を水の中で過ごすゲンジボタルは水の汚染状況を図る一つの物差しとして、また、幼虫時代を森の中で過ごすヘイケボタル、ヒメボタルは山や森の自然破壊が進んでいないかを図るバロメーターとして考えられます。

近年、減少してしまつたホタルを取り戻そうと、各地でホタルの保護や放流、環境づくりなどが行われています。その結果、昔懐かしいホタルの光が、よみがえっています。ゆるやかな川の流れのように、暗かりを舞うホタル。その光を放つのは5月上旬から中旬に始まり、十日間ほどと非常に短いですが、何百匹ものホタルが輝きを放つ様子は幻想的です。

今回は、市内の代表的なホタルスポットを紹介します。

池田病院デイサービスセンター広場
写真提供：竹下政博氏